

# こちぼらの今昔!

1号:4・12・1



●字名(上・下岩藤)の名付け花「岩藤・コマツナギ・庭藤」とも呼ぶ。  
・木知原では絶滅、赤石側に僅かに自生している(我が家にあります)

♥中屋敷・川東班の皆さん突然の“かわら版?”失礼します。

私事です、傘寿をふり返る齢となったからでしょうか、圃場事業で目前の風景が一変していくにつれ何かと昔を思い出すことが多くなりこの機会にムラのむかしを活字にしてみたくなりました。

この道に明るい訳ではありませんが一緒に振り返って頂ければ幸いと思い配らせて頂きました。なぜ両班に?と問われれば、昔は浦山の集落で同じ「中屋敷」での共同体であったと言う想いからです。「面白ければ読んでやる!」そんな気持ちで結構です。宜しく。

## 圃場整備で消える字名と地勢

**木知原**の字名は江戸から明治までの約300年間かけて新しい耕地が開発される度に親しめる名を付けて今日に至ったのです。

この長い歴史を持った字名や地勢が圃場整備でアッという間に消えてしまう訳ですから、なごりおしさを感ずるのは私一人ではないと思います。完成後の場所呼名はどうなるのでしょうか。

また、字名とは別に「西沖・前沖・下沖」の呼名をご存知ですか。これは住居が全て浦山の裾野にあった頃、眼下に広がる広大な河川敷を眺めて何時の頃からか誰言うもなく付けられた名ですが、それにしても雄大な呼名だとは思いませんか。発想がすごい!

岩藤(上・下)・岩崎・井川端・大川端・平尻等の懐かしい字名が消える?



●「沖」は、「離れている所・広い田畑や原野の遠い所」の意があり同意の呼名と思われる。  
・「西沖」は「ニショーキ」、「下沖」は「シモダ・シモダオキ」とも呼ばれていた。

**新田開発**は江戸時代前期に大垣藩主(戸田氏鉄・うじかね)によって始められました。氏鉄は木知原を直接の領下(それまで木知原は江戸幕府の直接支配地であった)とし正保元年(西暦1644年)に岩崎と門洞用水の工事に着手しました。(三代将軍家光の時代)

木知原の字名は誕生以降その名が今日まで一ヶ所も変わっていないのが珍しい歴史でもあるのです。それだけにこの機会に先人の生き様にこころ馳せるのも“亦楽しからずや”ではないでしょうか

## 新田での農作業始まる



**圃場整備**後の新田「谷川東・村東・平尻」では既に農作業が始まられています。下の風景が焼き付いている私には全くの別世界が広がっています。



「ここがウチの田んぼ!」なんて言葉はもう聞かなくなってしまう。《本巢で1番広い一枚田?》  
●どんな作物でどのような風景が広がるのか楽しみですが、やっぱりちょっと寂しさも... 以上



♥こんな雰囲気でも...少しくどくなった一号ですが次号からもう少し読み易いよう心掛けます。 横山敏朗